

「すべての原発を廃炉にしよう！」シリーズ22

「川内原発再稼働？穴だらけの厳格審査？」

原子力規制委員会は7月16日、九州電力川内原発1・2号機について再稼働「適合」とすることを了承した。そして安倍政権は「世界で最も厳しい新基準」と言いながら、原発再稼働・輸出の動きを加速させようとしている。しかし、その内容は極めてずさんなものだ。

ウエットティッシュで除染？避難計画は丸投げ？

☆脆弱な作業拠点

事故発生時に備えた作業拠点は建設中で、当面は代替の建物を使う。そこは狭くて水道もなく、トイレも仮設。作業員が放射能を浴びた場合、シャワーを流して除染するのが通常だが、川内原発ではウエットティッシュで拭く。

☆ベント（排気）設備・第二制御室未完成

放射性物質の放出を千分の一程度に抑えながら、格納容器内の水蒸気を抜いて圧力を下げるフィルター付きベント（排気）設備や、テロに備えて通常の制御室が使用できなくなった場合に原子炉の冷却を続けられる第二制御室も未完成。

☆事故発生時の避難計画は自治体に丸投げ。

米国では避難計画が機能することが稼働条件となっている。鹿児島県知事は「30キロ圏を超える避難計画は現実的ではない」と10キロ圏を超える避難計画は作成しないと発表した。福島第一原発事故では30キロを超える範囲が、いまだに人も住めない大地となり、13万人もの住民がいまだに避難生活をおくっている状況をどう考えているのか？

☆火山は予知で対応？

川内原発の周りには五つのカルデラ型火山があり、巨大噴火の可能性が指摘されている。しかも火山研究家は「予知は不可能」と言っている。また東京大地震研究所の中田節也教授は「地震対策で活断層を13万年前までさかのぼって調べるなら、1万年に1回という頻度の巨大噴火対策はより厳しくないといけない」と指摘している。

意見公募（パブリックコメント）で原発再稼働反対！の声をあげよう！

原子力規制委員会は8月15日までに川内原発の新規制基準による審査結果案について意見公募（パブリックコメント）しています。インターネットで規制委員会ホームページにアクセスするか、郵送・FAXでも受け付けています。福島第一原発事故の收拾すらできず、放射性廃棄物保管場所もないなかで、儲け（「金目」）のために原発再稼働・輸出に動く電力会社・安倍政権・財界の策動を許さず、原発再稼働反対の声をあげていこう！日本列島をこれ以上、放射能まみれにしていいのか？